



AZUSA

CPLER Newsletter
2014.12.1 No.16

「梓」… 法曹分野に従事する早稲田大学校友（稲門法曹）と法務研究科修士・在学生および早稲田大学法学学術院教員を繋ぐ、法学情報・コミュニケーション誌。

任期満了に伴い、2014年9月21日付で本学の箇所役職者が交代いたしました。

ご挨拶

大学院法務研究科長
法務教育研究センター所長 甲斐 克則

「日本一の法科大学院を作ろう」という誘いに乗って11年前に広島大学から早稲田大学にわくわくしてやって来たのを今でも鮮明に記憶しています。法科大学院制度も、創設から10年間を経て激動しつつありますが、浦川道太郎先生、鎌田薫先生、石田眞先生と繋がれてきたバトンを受けて、この度、法務研究科長に就任したのを契機に、『梓』誌上で皆様に一言ご挨拶申し上げます。

まずは、今年（2014年）の司法試験の早稲田大学法科大学院修了者合格者数が172名で日本一になったことを皆様と共に喜びたいと思います。特に法学未修者の合格率と合格者数が良かったことは、特筆に値するといえましょう。しかし、全体の合格率を見ると、まだまだトップとは差があり、さらなる努力をする必要があります。全体の合格率を上げることが早稲田大学法科大学院の実力をさらに伸ばすことになるかと確信しています。

それにしても、何よりも法科大学院への進学希望者が全国的に減少していること、それと連動して早稲田大学法科大学院の受験者数も減少していることにいかに取り組むかが当面の課題となります。そこで、ピンチをチャンスに変えるために何ができるか、を真剣に考え、実践していきたいと思っています。主な課題は、学生教育環境のさらなる

整備・充実化の実現です。具体的な柱としては、次の3つを考えています。

第1に、法務教育研究センターの組織的強化です。このセンターは、いわば早稲田大学法科大学院の特徴を示すもののひとつですが、まだまだ改善し強化する方策があると考えます。リカレント教育の実践等によって、リーガル・クリニック、コモンズ、修了生と在校生の連携が強化されると思われます。

第2に、学生の教育支援を強化することです。この方向性は、すでに様々に試みられていますが、AA制度のさらなる活用を勘案しつつ、また、特に女性法曹輩出プログラムを軌道に乗せるなどして、さらに充実させたいと思います。これにより、合格率を着実に上げていき、司法試験合格者数トップの地位を一時的なものに終わらせずに維持していきたいと考えています。

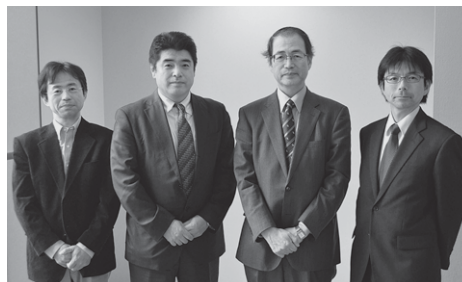
第3に、本法科大学院の開校以来のポリシーである「挑戦する法曹」の育成を多角的に展開したいと思っています。これはすでに一定の成果を得ていますが、「NEXT10プログラム」の策定によりさらなる充実化へ向けた軌道に乗りつつあり、さらにそれを実現すべく文部科学省の「加算プログラム」にも申請している任官支援コース、グローバル・ビジネス・コース、ソーシャル・イノベーター・コースを中心とした具体的内実をもったものとして推進していきたいと考えています。

以上の次第ですので、早稲田大学法科大学院を名実共に日本一の法科大学院にするため、どうかご支援をよろしくお願い申し上げます。

9月21日からの大学院法務研究科および法学学術院の新体制をお知らせいたします。

法務研究科長・

法務教育研究センター所長	甲斐 克則 教授
法務研究科教務主任(教務担当)	松村 和徳 教授
法務研究科教務主任(学生担当)	秋山 靖浩 教授〔再任〕
法務教育研究センター副所長	岡田 正則 教授〔再任〕
法学部長(法学学術院長)	棚澤 能生 教授
法学研究科長	棚村 政行 教授〔再任〕
比較法研究所長	菊池 馨実 教授



左から岡田教授、松村教授、甲斐教授、秋山教授

※なお、鎌田薫教授(法務研究科)が早稲田大学総長に就任いたしました(再任)。任期は2014年11月5日～2018年11月4日です。

稲門法曹会理事会・総会・懇親会 開催報告

2014年10月25日（土）に2014年度稲門法曹会理事会・総会・懇親会が開催されました。

本年は役員選任の年となりますが、現会長の阪井紘行会長の再任が理事会にて可決されたほか、副会長13名および常任理事32名が会長により指名され、新任11名を含む206名の理事が総会の議決により任命されました。

理事会・総会の後には、菊間千乃弁護士による記念講演会、ならびに懇親会が開催されました。懇親会は、昨年司法修習を終えた新人稲門法曹の歓迎会、本年度司法試験合格者の祝賀会、および稲門法曹会ホームカミングデー（対象修習期：21期、26期、31期、36期、41期、46期、51期、56期、61期、66期）を兼ねて開催され、約250名の稲門法曹等が母校で再会・交流し、親睦を深める機会となりました。

来年度は、2015年10月24日（土）の開催を予定しております。多くの皆様のご参加をお待ちしておりますので、お声掛けのうえ、ぜひご参加ください。



記念講演会〈要約〉

「自分らしさとは何か ～ポジティブに法曹界へ乗り出そう!～」

弁護士 ^{きくま} 菊間 ^{ゆきの} 千乃

（弁護士法人松尾総合法律事務所、1995年早稲田大学法学部卒業）

私は、アナウンサーを辞めたあと弁護士になってまだ3年ほどなので、「法曹とは何か」などと語ることはできませんが、若い皆様がこれから法曹の世界で前向きに楽しく仕事をしていけるように、20年間の社会人経験等をもとにお話したいと思います。

人生の目標というのは、できるだけ早くかつ具体的に立てた方が達成率が高いものです。流れに任せるのではなく、目標から逆算して今何をすべきかを考え、人生を自分で「デザイン」していく

意識を持ってください。そのためにはまず自分を客観的に分析し、自分の目指す方向をしっかりと見定めることが重要です。口下手、留学歴がある、成績が良い等、まず自分の性格や属性を客観的にプラスとマイナスの事実に分けてみます。次にプラスを伸ばしていくことはもちろん、マイナスの事実をプラスと捉えることはできないか、マイナスだとしてその事実とどうやって向き合っていくかを考えるのです。例えば年齢が高い、女性であるといった事実は、一見マイナスと見られがちですが、視点を変えれば、経験が豊富だったり、女性らしい細やかさがあるとも言えるでしょう。結局は自分の考え方次第なのです。自分の頭で考え、自分で決断をしてください。皆と一緒にいいやと考えることを放棄した人は、何をやっても満足できない人生に終始すると思います。

最後に。何より自分が楽しく仕事できることが一番ですから、絶対に嫌だと思ふことはやらないでください。逆を言えば、それほどでもないことは、3年間つべこべ言わず頑張ってみてください。きっと次の戦略が見えてきますから。

※菊間弁護士の講演内容（全文）は稲門法曹会 Web サイトでご覧ください。



交換留学プログラム制度について

早稲田大学法務研究科は、交換協定を締結する海外ロースクール等から、毎年 10 名程度の留学生を受け入れており、その数は過去 11 年間で 100 名を超えます。

留学生にとって本研究科への留学が日本法の基本的な内容を理解する機会となると同時に、本研究科の学生にとっても、授業や課外活動にて留学生と交流することにより、自然のうちに国際性を涵養する契機となります。とりわけ留学生の必修科目では、留学生が自国の法制度の概要をプレゼンテーションし、これに本研究科の学生が参加して英語で議論を行う方式を採用しています。

このように、将来法曹となる学生が早稲田にしながら、留学生とともに英語で授業を受ける機会をさらに拡大し、国際性を養うことが期待されます。



授業風景

“Incredibly Huge”

Anaïs Rommelaëre
Université Pantheon-Assas Paris II

That's what I thought when I first laid eyes upon Waseda University. So many buildings, so many students, so many places... it's like a beautiful town in itself.

From the emblematic statue of the founder, Ôkuma Shigenobu, surrounded with Ginkgo tree alleys, to green spaces and coffee shops for students where you can take a break with friends. I love it all.

Waseda University gives you a warm feeling where it feels good to study. It's been a month that I'm studying here at Waseda Law School. I've fit in quite nicely from the very beginning thanks to the warm welcome of the teachers and students. I also could strongly rely on the NASIC (National Students Information Center) to help me find an accommodation and to assist me through administrative procedures.

I have a total of 6 courses to study this semester, through which I can learn about Japanese law. All of those courses are very relevant. I particularly enjoy the criminal law course. The comparison between the criminal law in Japan and in France is fascinating. Especially on the death penalty which was abolished in France in 1981. Moreover, this course deals with stimulating subjects such as the Interrogation Reform.

The study of Japanese constitutional law is also very interesting. It feels good being here. There are lots of exchange students from all over the world, which makes of Waseda campus a melting pot. I have no second thoughts about my choice of university abroad. I'm learning a lot about Japanese culture, language and legal system. Waseda Law School is a place to be if you like passionate exchanges with very smart and open-minded students; and the staff, teachers and lecturers are really enthusiastic about their fields of research.

It is, to me, a very rewarding experience which also broadens my professional opportunities. It's giving me a new form of autonomy and it opens up my views on the world.

Pursuing a Global Perspective

Christopher McCormack
Osgoode Hall Law School of York University

I applied to the international exchange programme at Waseda Law School because I am interested in international law, particularly international business law, and would like to work with clients doing business between Canada and Japan. My goals when coming here were to gain a better understanding of Japanese legal practices, to develop a more global perspective on international business law, and to improve my Japanese language abilities. My high expectations for the programme have all been met.

I am taking five law courses (International Trade Law, International Financial Law, International Entertainment Law, Criminal Justice in Japan, and Introduction to Japanese Legal Research) and five Japanese language courses. The law classes that I am taking are all taught in English, and the professors work hard to engage the students in a variety of ways. In addition to lectures by professors who bring a wealth of interesting experiences to the classroom, I have had the opportunity to visit the Tokyo Stock Exchange and will also attend a criminal trial. The Japanese language programme at Waseda University is also excellent. Taking language classes has helped me to not only communicate better in Japanese and become more engaged in Japanese culture, but also to meet many interesting people from all over the world.

Ultimately, it is the people you meet that determine the nature of the experience. Thankfully, the faculty, staff, and students at Waseda Law School have been incredibly welcoming and supportive. I feel very lucky to have met so many great people during my time here. And, of course, it has been great fun living in Japan. Every day is full of adventure and new discoveries.

■平成 26 (2014) 年 司法試験結果

受験者 489 名 (既修 214 名 / 未修 275 名)
合格者 172 名 (既修 99 名 / 未修 73 名)

本研究科は合格者数としては全国 1 位になりました (合格率は 35.2%)。特に、未修者受験者の合格者数は、昨年に引き続き全国 1 位となりました。

■サンクス・ロースクール・ドネーション開催報告

早稲田ロースクール稲門会 理事 一色 翔太

早稲田ロースクール稲門会と大学院法務研究科は、本年 10 月 8 日 (水) に小野梓記念館 306 教室において、リベンジ組を含めた来年度の受験生及び在学学生を対象に、毎年恒例の企画となっております、サンクス・ロースクール・ドネーションを開催しました。

本年の事前申込人数は 132 名で、当日参加者を含めると 150 名以上のご参加をいただきました。他方で、早稲田ロースクール修了生 (特に本年度受験生) にご寄付のお願いを申し上げ、引越し用ダンボール箱にして合計で 20 箱程度の書籍・文具類のご寄附を頂戴しました。結果、参加者からは感謝の言葉もいただき、盛会のうちに終えることができました。

本企画は、司法試験に再挑戦する修了生及び在学学生のために、書籍・参考資料等の提供を無償で行うことにより、修了生及び在学学生の経済的困難が軽減され、受験勉強に集中できる環境を整えることを目的としております。

次年度も本企画を維持発展できますように早稲田ロースクール稲門会一同精進して参ります。今後とも温かく見守っていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



■Web サイトリニューアルのお知らせ

大学院法務研究科および法務教育研究センターでは Web サイトリニューアルに伴い、2014 年 11 月 5 日より新 URL へ移行いたしました。「ブックマーク」や「お気に入り」に登録されている方は、お手数ですが下記の新アドレス (URL) への設定変更をお願いいたします。

大学院法務研究科

【旧】URL : <http://www.waseda.jp/law-school/>

【新】URL : <http://www.waseda.jp/flaw/gwls/>

法務教育研究センター

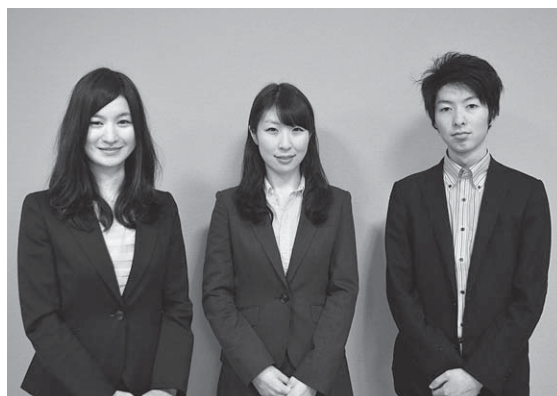
【旧】URL : <http://www.waseda.jp/law-school/cpler/>

【新】URL : <http://www.waseda.jp/flaw/cpler/>

■エクスターンシップ報告

大学院法務研究科 2 年

服部 槇子 / 仁科 舞 / 岸 勇太郎



左から服部さん、仁科さん、岸さん

企業の中で法律家としてどのような仕事ができるのか知りたいと思い、ユニリーバでのエクスターンシップを希望しました。

実習中は、会議に同席させていただいたり、現在進行形の業務を担当させていただいたり、企業内法務のありのままを体験することができました。ご担当の法務の方は、時間があれば社内を回って積極的に社員に声をかけておられ、その姿は抱いていたイメージとは全く違うものでした。企業内法務には、会社の良きパートナーとなり、リスクを最小限にとどめて会社とブランドを守るという役割が期待されています。こうした仕事に使命感を持って取り組む方々に強く感銘を受けるとともに、将来法律家として社会に貢献したいという思いが一層強くなりました。

企業内法務の仕事は、エクスターンシップ等の経験をしなければ具体的なイメージが湧かないものだと思います。今回のエクスターンシップにおいて、大変お忙しい中でも熱心に指導してくださった受入機関の皆様、そして多くの機関に学生を送り出してくださった早稲田大学には、心より感謝しております。ありがとうございました。

〈♪お便り募集♪〉

当センターでは、皆様からの声を掲載していきたいと考えております。

近況報告・同窓会のお知らせ、所属稲門法曹会の総会報告等ございましたら、以下までご連絡ください。

2014 年 12 月 1 日 発行

編集・発行 早稲田大学法務教育研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

Tel : 03-3208-9592 / Fax : 03-3208-9604

Email : law-school-cpler@list.waseda.jp

<http://www.waseda.jp/flaw/cpler/>